

継続アクティビティ

SAPPORO GREEN LIONS CLUB

環境保全事業

・チシマザクラ苗木市民頒布（2015年～）

この事業は構内に「チシマザクラ並木」を擁する「国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所」（以下寒地土木研究所）と「緑を愛し地球環境を大切に」を基本理念に持つ札幌グリーンライオンズクラブとで「チシマザクラ並木を地域の宝物として活用し、緑化に関わるプロジェクト推進」を目的に「千嶋桜基金に関する覚書」を締結した事から始まりました。

頒布する苗木はチシマザクラが実（さくらんぼう）をつける6月、我クラブメンバーが寒地土木研究所構内に赴き採種、その種を特別にこしらえた混合土に蒔き、灌水管理して2年目にポット移植。3年目10～15cm、4年目30～40cmに成長した苗木にします。これら一連の作業をクラブメンバーが一貫して行い、構内で傷んだ木の補植をしたり、開花時期の構内開放に合わせ、観桜来所した希望者に頒布しています。頒布開始から8年、今年「貰った苗木が開花。凄く嬉しい」「失敗したので又載きたい」とのお話。「この桜並木を地域の宝物に。研究所のタネを後世に残したい。」と話された所長さんのお言葉と、共に取り組んで来た活動が少しずつ実を結んで来ているのを実感します。（寒地土木研究所 豊平区平岸1条3丁目1-34）

・石狩川自然再生植樹（2001年～）

ご指導いただいている岡村先生から「蛇行していた川を真っ直ぐにするため河畔林を伐採して今の姿になった」と伺いました。昔はハルニレ・ヤチダモの大木が茂りシマフクロウやタンチョウが住み、川にはチョウザメも居たそう。我々が植樹した苗木が成長して森になり、川に魚が戻り、生態的サービスにより100年後、巨木が立ちシマフクロウが戻って来て巣作りする。そんな大きな森実現に想いを馳せています。（植樹方法：生態学的混播・混植法）

・新川通りチシマザクラ点検・補植（2016年～）

日本一長い桜並木で有名な新川堤。距離が長い分海岸に近い場所に植樹されたエゾヤマザクラ等は日本海から吹き込む浜風の影響もあり、枯れ死が目立っていました。そこで低木で風や寒さに強いチシマザクラ苗木を植樹し、毎年雑草除去・成長確認・補植作業を行っています。



構内のチシマザクラ説明板



満開時の構内風景（小川は精進川）



苗木頒布風景とチシマザクラ説明パネル



1サークルに10種10本の苗木を植樹



岡村先生から植樹方法の説明



こどもの声発表会受付



開始前説明

表彰風景



高校生意見発表大会表彰式



集合写真



卒園生にクラブ会長から支援金進呈

継続アクティビティ

SAPPORO GREEN LIONS CLUB

青少年育成事業

・こどもの声発表会（2006年～）

こどもの声発表会は5歳・6歳の幼稚園児・保育園児たちが出場します。日頃は同じ園の園児たちの前で発表する事有っても、知らない園児や多くの保護者たちの前で発表する事は滅多にない事。プレッシャーに負けず1分間のスピーチで将来の夢や楽しかった思い出、仲よし友達の話等を元気よく発表します。この発表会に出場した女の子が10年後高校生になり、青少年意見発表大会に出場したこともありました。

・青少年意見発表大会（1997年～）

クラブ設立2年目から実施している文科系アクティビティ。当時のクラブメンバーから「10代の子供達の声を直接聞きたい」との願いを北海道高等学校文化連盟の先生達のお耳に届いたのが大会開催の発端と聞いて居ます。

この大会は「新人大会」と位置づけられており、この場を経験した弁士達が全国の舞台上で活躍しています。

制限時間7分間に自分の想いを込めて発表します。発表テーマは自由で社会問題から自らの心模様まで多種多様な発表があります。弊クラブ実行委員長が「この大会は勝者を決める場ではなく、発表者が自らの考えを深め成長することが出来る場」と挨拶しました。素晴らしい男性に、女性に成長される事を願っています。

社会奉仕事業

・自立支援アクティビティ（2012～2024）

児童養護施設「社会福祉法人 興正学園」を巣立つ高校卒業生が独り立ちして新生活を始めるに際し、現実的に必要な身の回り品等の購入費用を援助する事業です。